



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



司教の手紙

ミサのカテケージス①

鹿兒島教区司教 中野 裕 明

「ミサ」の起源について、教区の皆さま、お元気でしよか。

今年、司教目標として、「私」を挙げました。その理由として、昨年、待降節から改訂されたミサ式次第の実施に際し、信者各位がミサそのものの理解を深め、自分の信仰生活や、教会共同体の建設のために役立てる機会となればよいとの意見が司祭団から出されたことが挙げられます。

「ミサのカテケージス」とは要するに、ミサを捧げることに伴って、信者各自が信仰を響かせ、お互いの信仰を増幅させていくということを目指しています。

カテケージスとは、信仰を響かせる、という意味です。日本語訳では、「信仰教育」とか「要理教育」と訳され、どうしても知的理解の印象を免れません。従って、信仰が霊肉ともに高揚していくように、との願いを込めて原語のまま「カテケージス」を用いたいと思っています。今回はミサの起

源についてお話しいたします。新約聖書の中から、時間の経過に沿って拾っていきます。

ミサの起源は、ずばり、最後の晩餐でのイエスの言葉にあります。「一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちと分けながら言われた。『とって食べなさい。これはわたしの体である。』また、杯を取り、感謝の祈りを唱え、彼らに渡して言われた。『皆、この杯から飲みなさい。これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。』」

この国でああなたがたと共に新たに飲むその日まで、今後どうの実から作られたものを飲むことは決してあるまい。『一同は賛美の歌をうたつてから、オリイブ山へ出かけた。』(マタイ26・26-30)。(ルカ22・14-22)に描かれています。

さて、この時弟子たちは、イエスの発した言葉の意味を理解していただろうか。答えは否です。なぜなら、イエスはその後ゲッセマニの園でローマ兵に捕縛され、翌日裁判にかけられ、十字架での死に至りますが、その時弟子たちは、何もできずに様子伺いだったからです。

復活の日、エルサレムからエマオに下る2人の弟子に、復活したイエスは旅人の姿で、同伴します。2人は、3日前に神からのメシアだと期待していたナザレのイエスが、ユダヤ教の祭司長や議員たちによって十字架による死刑にされてしまったと落胆した様子で旅人に告げます。復活したイエスは「モーセとすべての預言者から始めて、ご自分について書かれていたことを説明された。』」(ルカ24・27)。

それから事件が起きます。2人は目指す村に近づきましたが、旅人は先に進もうとしました。2人は無理に旅人を宿に引き留めました。旅人の姿

をした復活したイエスは「一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。』(同上30-31節)。

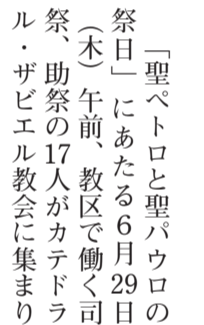
そして、2人は時を移さず出発して、エルサレムに戻ってみると11人の仲間が集まっていた。本当にイエスは復活して、モンに現れたと言っていました。二人も、道で起こったことや、パンを裂いてくださったときにイエスだと分かった次第を話した。』(同上35節)。

2人の弟子は、復活したイエスと、最後の晩餐でのイエスの言葉と仕草が一致したことによって、イエスは、一度は死なれたが、今や自分たちと共にいてくださること、しかもそれは、最後の晩餐の時の言葉と仕草を繰り返すことで確認できるといふ信仰の核心を得たのだと言います。

主イエスの復活から50日後、弟子たち一人ひとりの上に聖霊が降ります。いわゆる聖霊降臨です。そのころの信者たちの様子が記録されています。

ミサをささげコンベンツスを開催

聖ペトロと聖パウロの祭日に



「聖ペトロと聖パウロの祭日」にあたる6月29日(木)午前、教区で働く司祭、助祭の17人がカテドラル・ザビエル教会に集まり

中野司教を囲んでミサをささげた。マタイ福音書朗読のあとに説教した中野司教は、「聖ペトロ、聖パウロが教会の礎を築いてから2000年が経過した。そして教会は制度化され、司祭もサラリーマン的と思われがちになってきた。日本にキリスト教が伝えられてから474年、信者は40万人程度と伸びを見せない。今、日本の教会のあるべき姿は制度化された教会ではなく、イエスがどんな生き方をしていたのかを示すことのできる初代教会のイメージ。天国への鍵を持っている教

すら心を一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもつて一緒に食事をし、神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。』(使徒言行録2・44-47)

8月6日～15日は カトリック平和旬間

1981年、聖ヨハネ・パウロ二世教皇は広島で、「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことである」と述べられました。戦争を振り返り、平和を思うとき、平和は単なる願望ではなく、具体的な行動でなければなりません。そこで日本のカトリック教会は、その翌年、もっとも身近で忘れることのできない、広島や長崎の事実を思い起こすのに適した8月6日から15日までの10日間を「日本カトリック平和旬間」と決めました。「平和旬間」に広島教区と長崎教区では、全国から司教をはじめとして多くの信者が集まり、「平和祈願ミサ」がささげられます。各教区でも、平和祈願ミサや平和行進、平和を主題とした映画会、講演会、研修会、平和を求め署名などが行われます。

会として人々の高尚な面を引き上げることのできる教会になっていこう」とメッセージを送った。ミサ後は、教区本部会議室でコンベンツスが開かれ、主日のミサについて、またカテキスタ、集会祭儀奉仕者の養成などについての司教講話があった。その後、参加者たちは司教講話について分かち合いを行った。

地道な歩みが結実 「いのち・地球・平和を祈る会」発会

ザビエル教会主任司祭 小隈 憲 士

仏教、神道、キリスト教など宗派を超えて、誰もが望む穏やかな日常(平和な日々)のために共に祈り、行動する小さなグループが鹿兒島ではこの20年余り続いています。

戦争の世紀であった20世紀への人類の深い反省と共に、新しい世紀を迎えた私たちに、2001年9月の同時多発テロを契機に、アメリカによる報復の軍事行動は暗い影を落としました。

世界の各地で地域紛争があり、権威主義的な独裁者のために、苦しむ人々は年々増えています。80億人以上の地球上の兄弟姉妹にとって「平和」は次第に遠くなりつつあります。それでも、他者の痛みと共に感じる人たちはミャンマーの人々のために共に祈

す。弱い私たちが人間として尊厳を保てるのは、人間らしく日常を送ることの条件が整っている時です。ですから、戦争は人間にとって「生」の最大の危機です。他人事とは思わず

に、自分たちの「生」に深くかわる問題である、という意識を持つ小さなグループが共に祈り、行動することには大きな意味があります。

初聖体の喜びひろい！

名瀬聖心教会の子ども達

6月11日(日)キリストの聖体の祭日のこの日、聖心教会(鈴木康由主任司祭)のミサの中で3人(男

の子1人・女の子2人)の子ども達が初聖体の秘跡に与りました。



子ども達は2月から日曜の主日のミサ後(月2回)、4月からは毎週日曜日に鈴木神父様、シスター青堀(名瀬信愛幼稚園園長)の下で初聖体の準備を行ってまいりました。

このご時世、学校行事やスポーツ少年団で日曜日に3人が揃うことは中々ありませんでしたが、最後まで準備を行い、無事に当日を迎える事が出来た良かったと思います。

当日は、梅雨の真ただからです(霊操二十)。

これは、それらのものが大切ではないということではなく、すべてを神の手に委ねるといいうことです。自分のすべてを、時間も自分自身もすべてを差し出して神さまとだけ過ごすということ。神さまがなんとかしてくれたいという信仰のもとにすべてを差し出します。

イグナチオの霊操②

紫原教会主任司祭 貴島 丈 弥



イグナチオの「霊操」は、本来は、約30日間にわたって行われます。

この30日は四つの週に区切られます。週と言っても7日間で1週というわけではなく、それぞれに行われる黙想、観想のテーマによって分けられています。第1週は心のきよめ、第2週では受胎告知から枝の主日までの主の生涯、第3週は主の受難、そして、第4週では主の復活についてというようにテーマが与えられています(霊操四)。この4週を三つのステージで捉えることもできます。

第1週をきよめ(「purgative」)ステージ、第2週から3週にかけて照らし(「illuminative」)ステージ、第3週から4週にかけて一致の

(unitive)ステージとして、主との一致へと向けられて霊操が進められます。

今では、もちろん30日というまとまった時間を取る事ができない人たちのために、8日間の「霊操」や日常生活を送りながらでも行える「霊操」EVO (Esercizi Spirituali nella Vita Ordinaria) という形のものもあります。

「霊操」は必ず同伴指導者と1対1の対話のもとに行われます。毎日1時間の霊操や観想を5回行います(霊操十二)。霊操を受ける人の状態、状況によっては数や時間を減らした方が効果的な場合もあります(霊操十八、十九)。

同伴者との対話以外では、基本的に誰とも話をする事、目を合わせることを奨められています(霊操八)。「霊操」での実りがより豊かになるため、完全に日常生活から離れることも求められています。あらゆる黙想会の基本でもあります。友人、知人、日常での悩み事、心配事から完全に離れてお祈りに集中することにより大きな実りを得ることが期待されている

からです(霊操二十)。

これは、8日間と30日間を1回ずつの2回しか経験していませんが、「霊操」初めには必ずと言っていいほどの誘惑がやって来ます。助祭叙階の前に行った時は、招待状、案内状のことや、式の後の食事の心配など様々な心配事からの不安が押し寄せてきました。お祈りどころではないと思ってしまうました。しかし、同伴指導司祭との対話によりそれらは邪魔をしようという霊からの誘惑であることがわかり、退け、深い観想に入ることができました。

「霊操」では、霊の識別、良い霊と悪い霊の識別を同伴者で行うことも重要です。そういうことにも触れながら続けていきたいと思えます。

純心学園で聖母行列

行列となった。(報告 シスター木村百恵)

5月27日(土)さわやかな風が吹き抜ける中、鹿兒島純心学園では中学・高校・短大合同の聖母行列が4年ぶりに開催された。学生と生徒たちは祈りと奉仕作業を通して心を整え、豊かな時間を過ごした。

今年中学・高等学校は創立90周年を過ごしている。これまでの歩みへの感謝とこれからの歩みをマリア様のご保護に委ねたよき聖母

+KABAYAN SEKSIYON+
Pananampalataya: Tatlong Mahahalagang Elemento
 Bilang tapat na pagtugon sa panawagan ni Benedicto XVI sa Taon ng Pananampalatay, ilang mga paghinay ukol sa mayamang kahulugan ng pananampalataya ang nagging handog sa serye ng mga katesismo mula sa Sambuhay. Totoong malawak ang mga katawagan at mga larawang magpapasilip sa handog ng Diyos sa atin na pananampalataya. Posible nga kaya ang isang simpleng pagbuod o pagsasalansan? Palaging kabilang sa pananampalataya ang:

INTELEKTUWAL AT NOSYONAL- kabatiran-ULO-Doktrina
PAGGILIW AT PAGTITIWALA- paghubog/magbanyuhay-PUSO-Debosyon
ISINABUHAY sa mga GAWA-PAGPAPATOTOO-pagkilos-MGA KAMAY-Mga Gawa
 Sa ensikikal na Spe Salvi [2,4,10] malimit ipahayag nang pumanaw na + Papa Benedicto XVI na ang mensahe at pananampalatayang Kristiyano ay hindi lamang 'kabatiran' kundi 'pagkilos'."Tano ng ng Santo Papa: dahil sa ating pananampalataya, nagaganap ba ang mga bagay? Sadya nga ba itong nakapagpa panibago ng buhay.Tanungin nating lahat ang ating mga sarili: gaano ang pagkahinog at pagkabuo ng aking pananampalataya?Dumalangin tayo sa piling ng mga apostoles: "Panginoon, dagdagan mo ang ating pananampalataya" (Lu 17:5).
 Sa katotohanan, ang ating mga pananampalataya ay hindi pa sapat, hindi pa matatag at hindi pa nagiging malakas. Kaya ang mga salita ng ipinahayag sa atin sa ebanghelyo ni San Lukas na ang mga alagad mismo ni Jesus ay nanalangin na dagdagan ang kanilang mga pananampalataya dahil hindi pa nga matatag at malakas.
 Tulad nating lahat, hindi pa rin matatag kaya sa mga panahon na nagkakaroon ng mga pagsubok madali tayong sumuko sa kahinaan ng loob. Kung minsan parang di na natin nararamdaman na wala sa piling natin ang Diyos na sinasamba natin.Parang bang napakalayo niya sa atin.
 Subalit ang Diyos ay napakalapit sa mga taong hindi nawawalan ng pag-asa sa kanya, bagkus sa gitna ng mga pagsubok nandidiyan pa rin ang kanyang paniniwala at pananampalataya sa Diyos na hindi natin nakikita pero nasa piling natin siya dahil nakikita niya tayo at naririnig ang mga hinagpis natin kung tayo ay dumaraing sa kanya.
 Hindi niya tayo pinapabayaan sa kalagayan na kung titingnan natin ay walang pag-asa na tayo, na para nang pinabayaang niya tayo sa mga kalagayan natin. Sa katotohanan nandiyan siya sa ating tabi,naririnig niya ang ating mga panalangin at hinagpis, kaya huwag tayong mawalan ng pagtitiwala sa Diyos.
 (Fr.Dino Orolfo)



さらに前進！との決意を刻む

小教区発足50周年を迎えた玉里教会

7月1日に小教区発足50周年を迎えた玉里教会(泉浩二主任司祭)では、海の日の7月17日(月)、中野裕明司教と郡山健次郎名誉司教(共に玉里教会主任司祭経験者)、歴代の主任司祭を含む13人の司祭を迎えて記念のミサをささげた。

1970年7月に現在の玉里善き牧者幼稚園の隣接地を購入した教区は、まず司祭館建設に乗り出し、同



撮影記念で聖堂にミサ後

年12月6日、その祝別を行った。聖堂は建設されていなかったため、当時の信者たちはそれまで通りザビエル教会に通っていたが、司祭館には今は亡き成相明人神父が居住した。1972年4月からは成相神父に代わってザビエル教会助任司祭の松森孝郎神父(故人)が派遣された。

ものにしようと、実行委員会を設置し記念品や記念誌、ミサなどそれぞれの部門で準備を進めた。また「50周年の祈り」を作成して祈り続けるなど、記念の日を一過性のお祝いではなく、未来に向けた決意の日にすべく心を整えてきた。

この記念のミサで説教した中野司教は、これまでの玉里教会の成長を振り返りながら、「イエスの十字架を大事にすることが福音宣教だ」と述べ、「次の世代にこの思いをつなぐことのできる教会になって欲しい」とメッセージを送った。

終身助祭の集い

6月17日(土)、教区本部を主会場にインターネットを使って、本土地区の終身助祭たちを中心に特に北薩地区の主日の祭儀についての現状報告と分かち合い

とを約束します。またダム破壊によって水が氾濫した地方の人々は、生活の基盤を失い大変苦しんでいます。彼らには緊急の援助が必要で、ウクライナの姉妹達は、早急に役立つ支援物資を配るよう努めています。幸いに私たちはそれを可能にできる人脈を持っています

ウクライナ献金お礼状

レデンブートル宣教師道女会 総長 Srテオドラ

日本の姉妹達からウクライナの人々の援助のために30万円(6月)を頂いたとの知らせを受けました。心から感謝いたします。頂いた援助金で、食料、医薬品、包帯などを揃え、戦場にいる人々の命を守るために一刻も早く届けるこ

とを約束します。またダム破壊によって水が氾濫した地方の人々は、生活の基盤を失い大変苦しんでいます。彼らには緊急の援助が必要で、ウクライナの姉妹達は、早急に役立つ支援物資を配るよう努めています。幸いに私たちはそれを可能にできる人脈を持っています

神を求めたい人は、いな、か、と」という中の「目覚めた人」と訳された言葉にあたります(詩編142・2)。であれば悟るべきこととは何なのだろうか。それは「あなたたちは神の掟を捨てて、人間の言い伝えを固く守っている」という嘆かわしい事実です(7・8)。これこそイエス様にとつての汚れなのです。

ナでの大変な状況を祈りや支援金で支えて下さり、また私たちの行動を思い出し下さっていることに、総本部とウクライナの姉妹たちは心から感謝し、感動しています。これは偉大な希望のしるしであり、連帯の強い表れです。引き続き平和を願う祈りと、ウクライナの希望のある将来のために祈り、連携を保つことができますように。

がなされた。司祭の高齢化や病気による司祭不在の際の主日の祭儀については、今後、福崎英雄神父を中心に終身助祭が協力し合っていくことを申し合わせた。

教区カトリック社会福祉施設協会主催 研修会(公開講座)
 日時: 9月21日(木) 10時
 場所: 教区本部2F 会議室
 講師: 松田清四朗神父(コンベンツアル会)
 テーマ: フォーカシング(言葉にならない意味を感じる)

マルコ福音書には「フアリサイ派の人々と数人の律法学者たちが、イエスの弟子たちの中に汚れた手、つまり洗わない手で食事をする者がいるのを見た」という状況描写があります(7・2)。なぜここで「汚れた」から「洗わない」に言い換えられて繰り返されているのでしょうか。

「汚れた」という言葉に書き改められ、加筆されたのでしよう。確かに何かを共有したり、何かを一緒に使ったり、そして何かを共にしたりする場合、知らず知らず

《康由神父の聖書教室》65

「汚れた」ものの意味

のうちに汚れや不浄に触れる可能性が避けられませぬ。そこでこの言葉から、清めをしていない」という意味が派生してきたと言われています。であればここで

「悟りなさい」と訳された言葉は原語では詩編の「主は天から人の子らを見渡し、探される/目覚めた人、



と訳された言葉にあたります(詩編142・2)。であれば悟るべきこととは何なのだろうか。それは「あなたたちは神の掟を捨てて、人間の言い伝えを固く守っている」という嘆かわしい事実です(7・8)。これこそイエス様にとつての汚れなのです。

と訳された言葉にあたります(詩編142・2)。であれば悟るべきこととは何なのだろうか。それは「あなたたちは神の掟を捨てて、人間の言い伝えを固く守っている」という嘆かわしい事実です(7・8)。これこそイエス様にとつての汚れなのです。

会と催し 8月

- 1日(火) ウォラ神父叙階記念(2005年)
- 2日(水) みことばを祈る集い・ザビエル教会・10時
- 3日(木) 中野アカデミー・教区本部・14時
- 4日(金) ルーシン神父命日(1994年)
- 6日(日) 李秉徳神父霊名(聖ビアンネ)
- 7日(月) カトリック平和旬間(15日まで)
- 8日(火) 小平卓保神父命日(2005年)
- 9日(水) 田原章神父、宋診旭神父霊名(聖ドミニコ)
- 10日(木) 中野アカデミー・教区本部・14時
- 12日(土) 聖ラウレンチオ助祭殉教者
- 13日(日) 聖書の分かち合い・教区本部・14時
- 15日(火) 年間第19主日
- 16日(水) キリスト教伝来記念祭・ザビエル上陸記念碑前広場(セレモニー・16時) 及びザビエル教会(ミサ・18時)
- 20日(日) 中野アカデミー・教区本部・14時
- 23日(水) 年間第20主日
- 24日(木) 中野アカデミー・教区本部・14時
- 26日(土) 聖バルトロマイ使徒
- 27日(日) 坂本進神父命日(2022年)
- 28日(月) 聖書の分かち合い・教区本部・14時
- 29日(火) 年間第21主日
- 30日(水) 橋口啓悟神父、鈴木康由神父、重久知司助祭霊名(聖アウグスチヌス)
- 29日(火) 山口重義神父命日(2016年)
- 30日(水) オーバン神父命日(1988年)
- 29日(火) 司祭評議会・教区本部・14時
- 30日(水) 中野アカデミー・教区本部・14時
- 29日(火) ▼ペルリーニ神父命日(2008年)
- 15日(土) 【司教日程】2日中野アカデミー、9日中野アカデミー、15日キリスト教伝来記念祭、16日中野アカデミー、23日中野アカデミー、29日司祭評議会、30日中野アカデミー

【祈りの使徒会】

祈りの意向
 教 皇 ワールドユースデー
 日本の教会 核兵器廃絶

祈りとグレゴリアンの集い

2023年10月15日(日) 13時
 祈り
 ・ウクライナ(世界) 平和のため
 ・難民のため
 ・すべての人の命をまもるため
 ・家庭のため
 グレゴリアン
 ・13曲(ミサ曲を含む)
 演奏
 Coro Della Cappella Kagoshima
 (教会内外同好者)
 指揮: 桃蘭淳一郎(終身助祭)
 会場: 鹿児島カテドラル・ザビエル教会主聖堂

列福申請が提出(2021年11月)されたシドッチ神父のことをよく学び、鹿児島教区民が崇敬するようになるために、第2回シドッチ祭(1984年)で屋久島の方々に向けて当時の教区長糸永真一司教が講演したその要旨をお伝えしたい。(最終回)

三、日本近代化への影響

以上述べましたように、日本政府にキリスト教の自由を求めるというシドッチ来日の目的は半ば達したといえます。望ましい結果をすぐに得られなかったとはいえ、少なくとも使者として要求を幕府に伝えることには成功したからです。

しかし、偶然の成り行きから、シドッチの渡来は日本の近代化に大きい影響を与えることになりました。

た。それは第一回目の取り調べの時でした。取り調べが長引いて夕方になったので、白石が同席した奉行に時間を尋ねますと、この辺りには時を告げる鐘もないので答えます。するとシドッチは首を回して太陽の位置を見、また自分の影をたしかめて、指折り数

シドッチ神父について学ぼう④

第2回シドッチ祭(糸永司教)講演要旨

えながら、私の国では今何年の何月何日の何時に当りますと言ったので、白石はすっかり驚いてしまします。また、オランダ人ももたらした世界地図を開いて「ローマはどこにあるか」と通訳に尋ねた時、横文字で記された地名があまりに小さく、ついにローマの所在地をたしかめるこ

とができないでいると、シドッチは「コンパスはあるか」と言い、白石が所持していたコンパスを懐から取り出して与えると、「とめ金のところが少しゆるんではいないが、ないよりはましだ」と言いながら、地図の中の測定点にコンパスを合わせてクモの網のような図

わが国の学術のおくれを痛感しつつ、西洋の科学や技術を積極的に学ぶべきだと言いました。彼自身、実学を重んずる科学者としてシドッチから詳しく世界の地理や歴史について聞き糺し、オランダ人からの知識と合わせて、それらの聞き知った世界の状況を「西洋紀聞」と「采覧異言」に記録しています。

つながつて行きます。一説によれば、日本に較べて中国の近代化がおくれたのは、中国には日本におけるような蘭学ないし洋学が発達していなかったからだと言われますが、それだけに、新井白石とシドッチとの出会いが日本近代化への貴重な出発点になったのです。もし人々が白石をして蘭学の祖と呼ぶならば、シドッチ神父は日本近代化の恩人とも呼ぶべきではないでしょうか。

教義を十分に表現できる用語(または訳語)のなかったことも不幸なことだったと思います。いずれにせよ、白石はキリスト教の深さを充分理解しないまま、形而下については西洋に学ばなければならぬが、形而上のことについてはわが国が優っており、西洋に学ぶべきものは何もない、と結論してしまうのです。つまり、科学や技術などの実用な学問は西洋に学び、精神的なもの、宗教などは西洋に学ぶ必要はないというのです。

シドッチ神父が亡くなったから今年(2023年)はちょうど二七〇年になります。今日(2023年)には、シドッチの時代と違って信教の自由があり、外国との交流もまた自由です。まさに国際化の時代を迎えた今日の私たちにあって、国際人としてのマナーが求められていることは事実です。とくに、世界各国との本格的な文化交流をはかりつつ相互理解を深め、真の世界平和に貢献しなければならぬと思います。そういう意味からも、一人の悲運な宣教師シドッチ神父を記念し、顕彰することはまことに意義深いと言わなければなりません。

「存知ですか?」

鹿児島カテドラル・ザビエル教会1Fホール内に、ローマから付与された次のような恩典(特権)に関する揭示があります。(漢字と仮名遣いを一部修正。)

聖フランシスコ・ザビエルの鹿児島上陸を記念する本教会に特別に与えられた全贖宥(①)の恩典

ピオ12世聖下より附与された権限に基づき布教聖省は鹿児島教区長の請願に対して次の特権を与えることをよるごぶものである。

1. 8月15日、この聖フランシスコ・ザビエル教会を訪れるすべての信者に所定の条件(②)に従って教会を訪れる度ごとに全贖宥を与える。

2. 司祭はこの教会において聖フランシスコ・ザビエルの特志ミサ(③)を捧げることができ、ローマにおいて1954年11月5日布教聖省官房長 大司教ペトロ・リモン

- ① 全免償のこと。免償、全免償と部分免償の区別などについては、教会で神父様に尋ねてみてください。
- ② 全免償を受けたいという意思をもち、前後数日のうちに聖体拝領をし、ゆるしの秘跡を受け、小罪への執着からも離れ、教皇様の意向のために祈ること。
- ③ 信心ミサのこと。



要理

この地上の歴史は神様が何もなしで創られたからすべてをお創りになす。つまり自然にも人間にも創造主です。

私たちが自然を見て美しいと感じることが少なくありません。なぜ美しいかといえば神様が創られたからです。そしてその「美しさ」が分かるということは人間も神様が創られたからです。つまり自然にも人間にも創造主です。

人間は彼等から聞いた神様の言葉に耳を傾けるどころか殺してしまつたこともありました。このようなことがあつても神様は人間を諦めることはありませんでした。そればかりかご自分の独り子であるイエス様をこの世に遣わせば人間はきつとご自分の思いを理解してくれるだろうと考えたのです。それで神様はイエス様を遣わすためにマリア様をお選びになり母となさつたのです。

聖書には「あなたが御心に留めてくださるとは、人間は何ものなのでしょう。」とあります(詩編8・5)。次回からこの言葉の意味を考えてみましょう。

人間にある「神様らしさ」

聖書によれば「神はお造りになつたすべてのものを御覧になつた。見よ、それは極めて良かった。」とあります(創世記1・31)。であれば神様にとつて極めて良いこの世界をいろいろな意味で大切にしたいものです。

ある「神様らしさ」が共通して現れているからこそ「美しさ」が分かるのです。このように神様がご自分を人間に現わしてくださつたことを啓示と言います。

神様は旧約聖書に書かれているように「太祖や預言者の口を通じてご自分の思いを告げてくださいました。しかし

わが国の学術のおくれを痛感しつつ、西洋の科学や技術を積極的に学ぶべきだと言いました。彼自身、実学を重んずる科学者としてシドッチから詳しく世界の地理や歴史について聞き糺し、オランダ人からの知識と合わせて、それらの聞き知った世界の状況を「西洋紀聞」と「采覧異言」に記録しています。

つながつて行きます。一説によれば、日本に較べて中国の近代化がおくれたのは、中国には日本におけるような蘭学ないし洋学が発達していなかったからだと言われますが、それだけに、新井白石とシドッチとの出会いが日本近代化への貴重な出発点になったのです。もし人々が白石をして蘭学の祖と呼ぶならば、シドッチ神父は日本近代化の恩人とも呼ぶべきではないでしょうか。

教義を十分に表現できる用語(または訳語)のなかったことも不幸なことだったと思います。いずれにせよ、白石はキリスト教の深さを充分理解しないまま、形而下については西洋に学ばなければならぬが、形而上のことについてはわが国が優っており、西洋に学ぶべきものは何もない、と結論してしまうのです。つまり、科学や技術などの実用な学問は西洋に学び、精神的なもの、宗教などは西洋に学ぶ必要はないというのです。